

目 次

資 料

資料 1	福井医療大学の位置	・・・	2
資料 2	入学意向調査報告書	・・・	3
資料 3	採用意向調査報告書	・・・	32

福井医療大学の位置



所在地：福井県福井市江上町55字鳥町13番1

アクセス

福井駅から約12km

- ・車での所要時間 約25分
- ・バス利用での所要時間 約30分

京福バス
福井総合病院線
越前海岸ブルーライン



福井医療大学 御中

保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程
設置計画に係るニーズ調査報告書（学部生・大学院生編）

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	6
4. 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への関心分析	16
5. 進学需要分析	25
6. 補記	26

1. 調査概要

(1) 調査目的

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により学部生・大学院生の進学需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする

(2) 調査対象

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学ターゲット層となる大学に在籍する学部生及び大学院生

(3) 実施時期

2022年12月20日～2023年1月13日

(4) 回収状況

本調査では、大学9校420人を対象に調査票を配布し、その結果232件の調査票を回収することができた(回収率55.2%)

(5) 調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照

2. 調査・分析結果の要旨

(1) 調査結果の要旨

①性別

回答者の性別は、「男性」が78人(33.6%)、「女性」が152人(65.5%)で「男性」より「女性」の方が多くなっている。

②学年

回答者の学年は、「学部3年」137人(59.1%)が最も多く、「大学院2年」が53人(22.8%)、「大学院1年」が42人(18.1%)と続いている。

③所属分野

回答者の所属分野は、「医療技術(リハビリなど)」119人(51.3%)が半数以上を占め、次いで「看護学」111人(47.8%)、「その他」2人(0.9%)となっており、「医療技術(リハビリなど)」が「看護学」よりわずかに多くなっている。

④取得資格

回答者の取得している資格は、「その他」29人(12.5%)、「無回答・無効回答」55人(23.7%)を除き、「看護師」74人(31.9%)が最も多く、「理学療法士」38人(16.4%)、「作業療法士」20人(8.6%)と続いている。

⑤大学院博士課程への進学意向

回答者の大学院博士後期課程への進学意向は、「進学したいと思う」が26人(11.2%)、「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」が24人(10.3%)で、程度の差があるものの大学院博士後期課程への進学意向を持つこれらの回答者の合計が50人(21.5%)となっている。一方、「進学は考えていない」は126人(54.3%)となっており、56人(24.1%)が「わからない」と回答している。尚、「無回答・無効回答」として集計した未回答もしくは判別不能の回答はなかった。

⑥進学時期

回答者の大学院博士後期課程への進学時期は、「無回答・無効回答」5人(10.0%)を除くと、「進学時期は決めていない」18人(36.0%)が最も多く、次いで「開設1~4年後」13人(26.0%)、さらに「2024年4月(開設時)」及び「わからない」7人(14.0%)と続いている。

⑦進学先決定時の重視要因

回答者の進学先決定時の重視要因は、第1位が「研究科等の学びの分野」30人(32.3%)で、第2位「専門分野の能力向上」28人(30.1%)、第3位「アクセス・立地」9人(9.7%)となっている。

⑧大学院での学びの活用分野

回答者の大学院での学びの活用先は、第1位が「専門性を生かした業務」38人(45.8%)で、第2位「指導者」25人(30.1%)、第3位「研究者」20人(24.1%)となっている。

⑨保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向

回答者の福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向は、「合格した場合、入学したいと思う」が28人(56.0%)、「合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う」が11人(22.0%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が39人(78.0%)となり、進学意向は「合格した場合、入学したいと思う」で入学定員(3人)の9.3倍、「合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う」まで含めると13.0倍となる。一方、「入学しない」は11人(22.0%)となっており、この層には福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

(2) 分析結果の要旨

Q9) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向では、「合格した場合、入学したいと思う」が28人(56.0%)、「合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う」が11人(22.0%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が39人(78.0%)となっている(P.14)。

また、「合格した場合、入学したいと思う」と回答した28人は、「Q6)大学院博士後期課程への進学時期」について、「2024年4月(開設時)」5人(17.9%)、「開設1~4年後」12人(42.9%)、「開設5年後以降」0人(0.0%)、「進学時期は決めていない」6人(21.4%)、「わからない」3人(10.7%)と回答しており、「未回答・無効回答」が2人(7.1%)となっている。この数値は、「2024年4月(開設時)」で入学定員(3人)の1.7倍、「開設1~4年後」では4.0倍となっており、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への一定の継続的な進学需要があるといえる。

加えて、上記集計に含まれていない「Q5)大学院博士後期課程への進学意向」で「わからない」と回答していた層の中にも、「Q9)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向」を回答した層がおり、「合格した場合、入学したいと思う」が5人、「合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う」が6人となっていることから、これらの大学院博士課程への進学を決めかねている層に対して、説明会等で福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の教育・研究の目的と養成する人材像、身につけさせる能力について、修了後の進路との関係性も含めて具体的に説明することで、志願者層を拡大していくことも重要な成功要因となると考える。

3. 全体集計結果

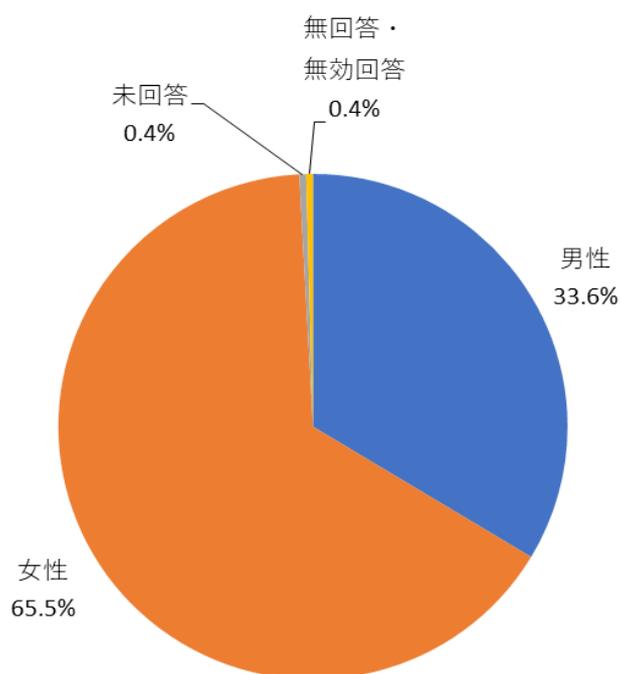
Q1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 78 人 (33.6%)、「女性」が 152 人 (65.5%) で「男性」より「女性」の方が多くなっている。

Q1) あなたの性別は、どちらですか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	232	100.0%
男性	78	33.6%
女性	152	65.5%
未回答	1	0.4%
無回答・無効回答	1	0.4%

Q1



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

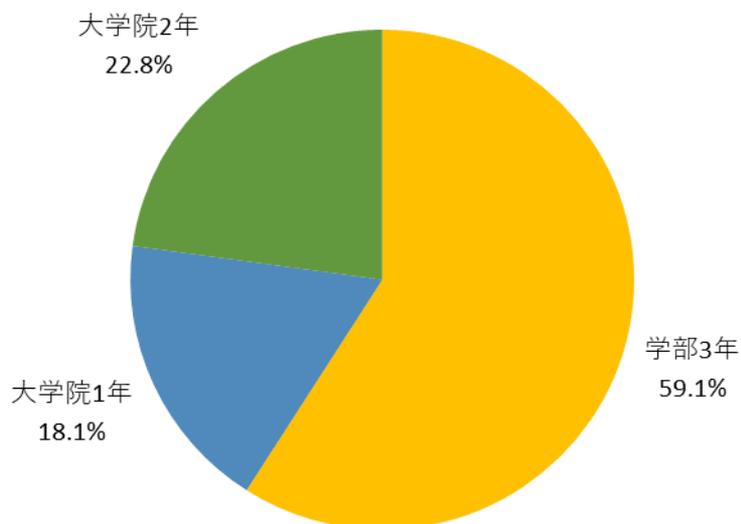
Q2) 学年

回答者の学年は、「学部3年」137人(59.1%)が最も多く、「大学院2年」が53人(22.8%)、「大学院1年」が42人(18.1%)と続いている。

Q2) あなたの現在の所属について、該当するもの1つ選び○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	232	100.0%
学部1年	0	0.0%
学部2年	0	0.0%
学部3年	137	59.1%
学部4年	0	0.0%
大学院1年	42	18.1%
大学院2年	53	22.8%
未回答・無効回答	0	0.0%

Q2



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

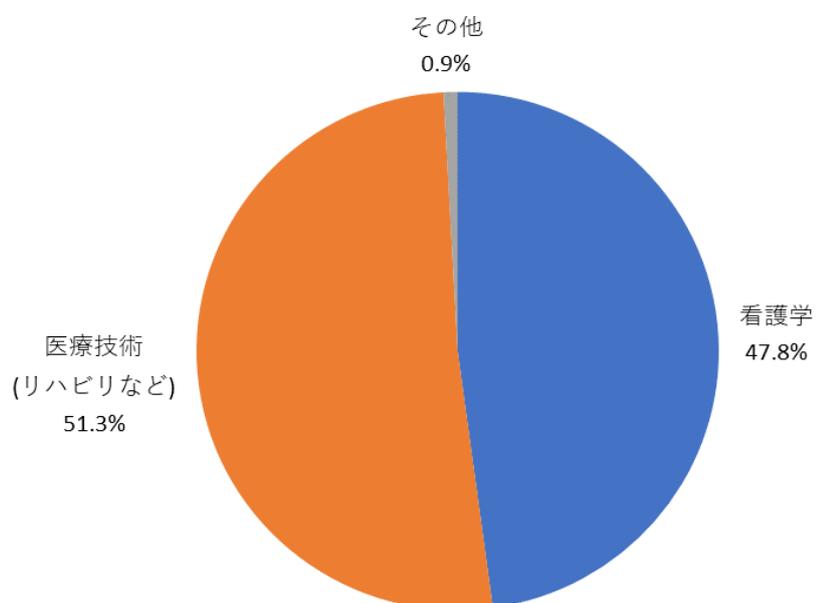
Q3) 所属分野

回答者の所属分野は、「医療技術(リハビリなど)」119人(51.3%)が半数以上を占め、次いで「看護学」111人(47.8%)、「その他」2人(0.9%)となっており、「医療技術(リハビリなど)」が「看護学」よりわずかに多くなっている。

Q3) あなたの所属する分野について、次の中から1つ選んで○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	232	100.0%
看護学	111	47.8%
医療技術(リハビリなど)	119	51.3%
その他	2	0.9%
無回答・無効回答	0	0.0%

Q3



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

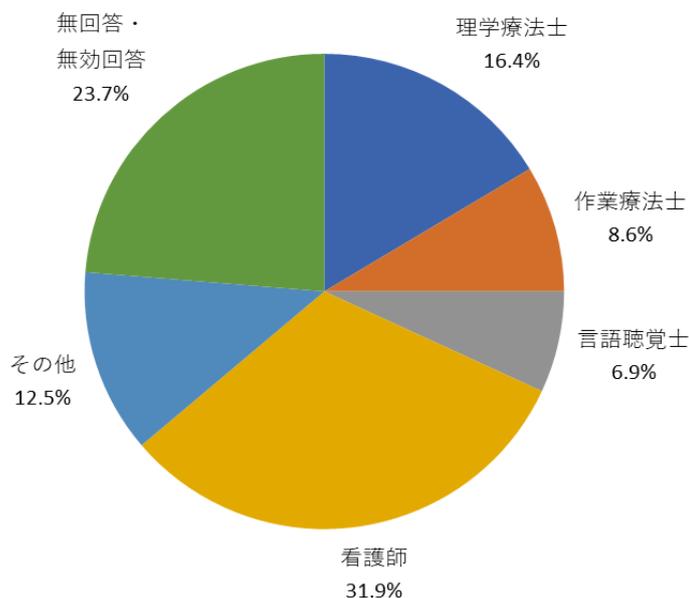
Q4) 取得資格

回答者の取得している資格は、「その他」29人(12.5%)、「無回答・無効回答」55人(23.7%)を除き、「看護師」74人(31.9%)が最も多く、「理学療法士」38人(16.4%)、「作業療法士」20人(8.6%)と続いている。

Q4) あなたの取得している資格について、該当するもの1つ選び○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	232	100.0%
理学療法士	38	16.4%
作業療法士	20	8.6%
言語聴覚士	16	6.9%
看護師	74	31.9%
その他	29	12.5%
無回答・無効回答	55	23.7%

Q4



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

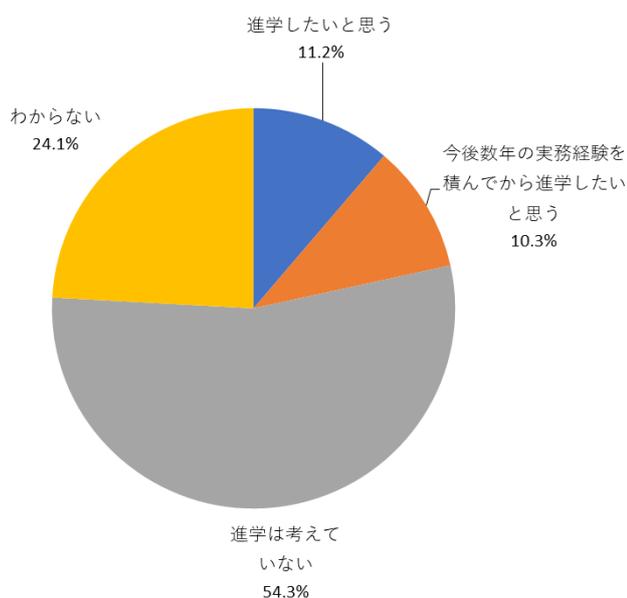
Q5) 大学院博士後期課程への進学意向

回答者の大学院博士後期課程への進学意向は、「進学したいと思う」が26人(11.2%)、「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」が24人(10.3%)で、程度の差があるものの大学院博士後期課程への進学意向を持つこれらの回答者の合計が50人(21.5%)となっている。一方、「進学は考えていない」は126人(54.3%)となっており、56人(24.1%)が「わからない」と回答している。尚、「無回答・無効回答」として集計した未回答もしくは判別不能の回答はなかった。

Q5) あなたは大学院博士後期課程への進学についてどのようにお考えですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	232	100.0%
進学したいと思う	26	11.2%
今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う	24	10.3%
進学は考えていない	126	54.3%
わからない	56	24.1%
無回答・無効回答	0	0.0%

Q5



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6) 大学院博士後期課程への進学時期

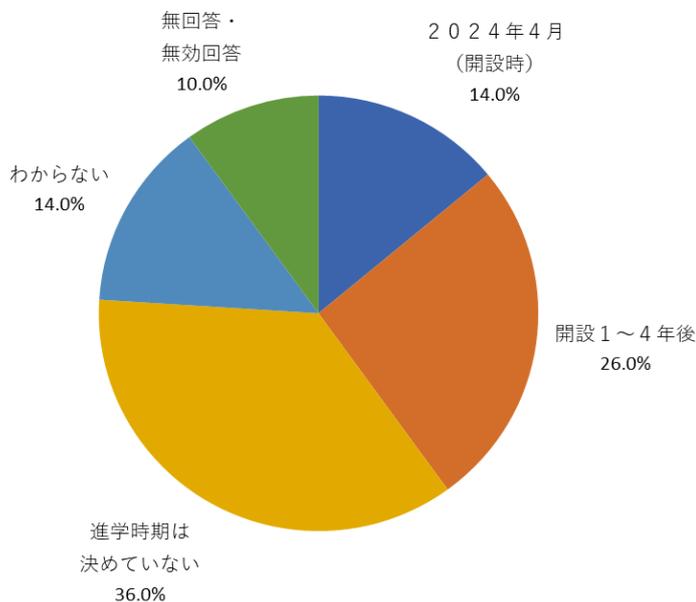
*Q5)で「1 進学したいと思う」「2 今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答

回答者の大学院博士後期課程への進学時期は、「無回答・無効回答」5人(10.0%)を除くと、「進学時期は決めていない」18人(36.0%)が最も多く、次いで「開設1～4年後」13人(26.0%)、さらに「2024年4月(開設時)」及び「わからない」7人(14.0%)と続いている。

Q6) あなたは進学時期についてどのようにお考えですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	50	100.0%
2024年4月(開設時)	7	14.0%
開設1～4年後	13	26.0%
開設5年以降	0	0.0%
進学時期は決めていない	18	36.0%
わからない	7	14.0%
無回答・無効回答	5	10.0%

Q6



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

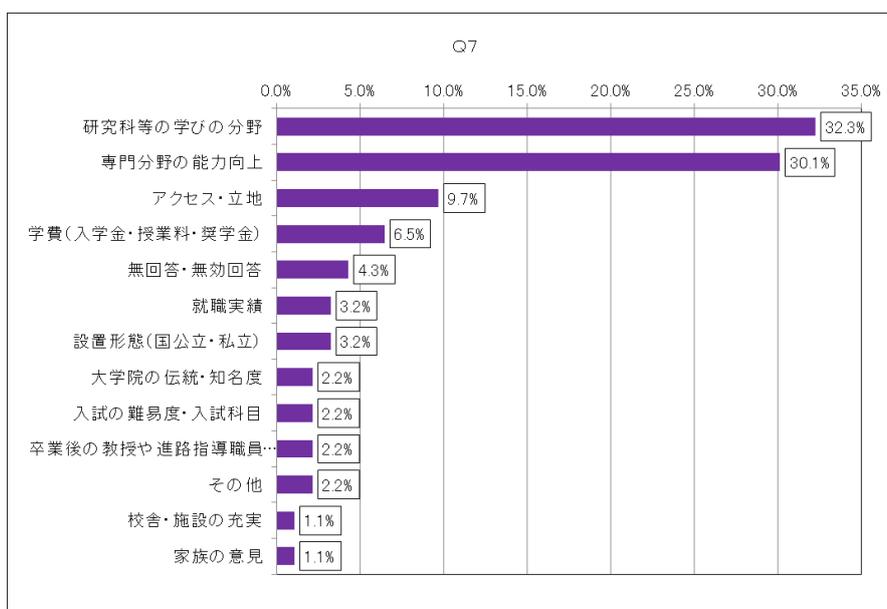
Q7) 進学先決定時の重視要因 (2 つまで選択)

*** Q5) で「1 進学したいと思う」「2 今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答**

回答者の進学先決定時の重視要因は、第 1 位が「研究科等の学びの分野」30 人 (32.3%) で、第 2 位「専門分野の能力向上」28 人 (30.1%)、第 3 位「アクセス・立地」9 人 (9.7%) となっている。

Q7) あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか？

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	93	100.0%
研究科等の学びの分野	30	32.3%
就職実績	3	3.2%
専門分野の能力向上	28	30.1%
設置形態 (国公立・私立)	3	3.2%
校舎・施設の充実	1	1.1%
学費 (入学金・授業料・奨学金)	6	6.5%
大学院の伝統・知名度	2	2.2%
入試の難易度・入試科目	2	2.2%
卒業後の教授や進路指導職員の意見	2	2.2%
家族の意見	1	1.1%
アクセス・立地	9	9.7%
特に理由なく進学自体が目的	0	0.0%
その他	2	2.2%
無回答・無効回答	4	4.3%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

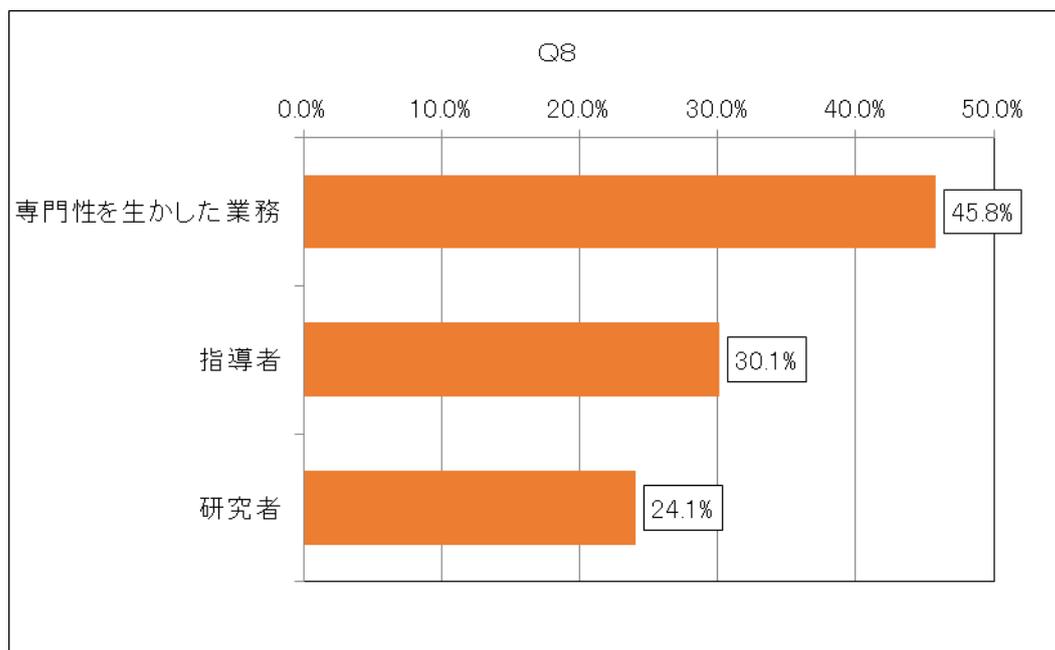
Q8) 大学院での学びの活用先 (2 つまで選択)

*** Q5) で「1 進学したいと思う」「2 今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答**

回答者の大学院での学びの活用先は、第 1 位が「専門性を生かした業務」38 人 (45.8%) で、第 2 位「指導者」25 人 (30.1%)、第 3 位「研究者」20 人 (24.1%) となっている。

Q8) あなたは大学院修了後、どのような業務で学んだことを活かしたいですか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	83	100.0%
専門性を生かした業務	38	45.8%
指導者	25	30.1%
研究者	20	24.1%
その他	0	0.0%
無回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (仮称) への進学意向

*** Q5) で「1 進学したいと思う」「2 今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答**

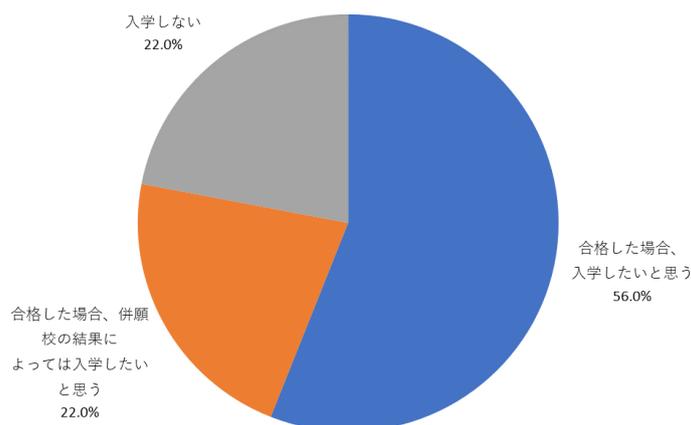
回答者の福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程 (仮称) への進学意向は、「合格した場合、入学したいと思う」が 28 人 (56.0%)、「合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う」が 11 人 (22.0%) で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が 39 人 (78.0%) となっている。

一方、「入学しない」は 11 人 (22.0%) となっており、この層には福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程 (仮称) の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q9) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程) (仮称) を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	50	100.0%
合格した場合、 入学したいと思う	28	56.0%
合格した場合、併願校の結果に よっては入学したいと思う	11	22.0%
入学しない	11	22.0%
無回答・無効回答	0	0.0%

Q9



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q10) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への意見・要望

***Q6)で「進学したいと思う」「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答**

Q10) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

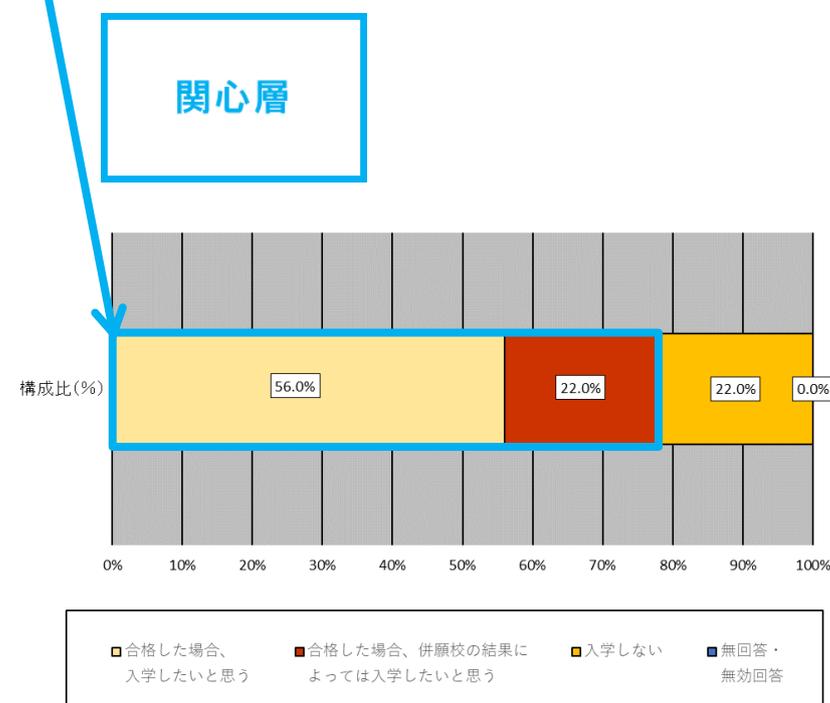
Q 1 0
・在宅での高度な専門職技術は今後、必要になることは間違いないです。 ・高齢者のみならず、分野を超えて連携することが大事である。
・特色として、支援センターとの共同が強みになると思うので、その特色をより発信すれば関心をもつ人が増えると思いました。
・人材像における分野（講座）が具体的に分からなかったなので、あると理解しやすいと思いました。（急性期というより、慢性や地域に重きをおいているように感じたのでそれが簡潔に伝わるといいと思います。また、企業での活躍についても特色に繋がると思います。）
パンフレットに書いてあった特色と自分が行っていきこうと考えている研究がマッチングしているか不安はある。
学費が高いと思った。
教授陣の方々の論文や研究内容の検討をさせて頂くと思います。
軽微でもいいので、学費免除の制度があれば入学希望者も増えるのではないかと思います。
県内のリハビリテーションの学術性向上につながることを期待しています。
後期課程を設置することはいいことだと思います。
自分の専攻分野ではないため。
自分の専門分野に長けた指導者がいらっしゃったら検討します。
社会人であっても学びを継続しやすい体制であれば検討したい。（長期履習制度等）
修士・学部同様にセンター職員に対する、学費の減免を宜しくお願いします。
設置計画が早急に進むことを願っています。
専門課程では、私学の特性を生かして、特任講師の活用を広く行って、枠にはまらない柔軟な知識が学べる環境としてあると、魅力を感じます。時代にあった学びのスタイルも取り入れて頂けると、社会人も入学しやすいと思います。
福井県内で博士過程に進学したい為、開設後、経済的事由、及び家庭の事由をみて、タイミングの良い時に進学したいと考えます。
勉学にはげみます。
保健医療学の博士号を修了することが、他の博士号（医学、看護学、学術など）とどう違うのか、その特色はなにかがはつきりすると進学意欲につながると思います。

4. 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への関心分析
保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の関心層

回答者の福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への関心を分析するため、以下のように「関心層」を定義する。Q9)において、「合格した場合、入学したいと思う」「合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う」を選択した合計 39 人(78.0%)を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向を分析する。

Q9) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程) (仮称)を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	50	100.0%
合格した場合、入学したいと思う	28	56.0%
合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う	11	22.0%
入学しない	11	22.0%
無回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

Q1) 性別×Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向

関心層の性別は、「男性」が 19 人(48.7%)、「女性」が 20 人(51.3%)で「男性」より「女性」がやや多くなっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と性別で「男性」を選択した層にわずかに相関性がみられる。

Q1) 性別と Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q1)性別	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願校の結果に よっては入学 したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	50	100.0%	28	100.0%	11	100.0%	39	100.0%		11	100.0%
男性	24	48.0%	15	53.6%	4	36.4%	19	48.7%	0.7%	5	45.5%
女性	26	52.0%	13	46.4%	7	63.6%	20	51.3%	-0.7%	6	54.5%
未回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q2) 学年×Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向

関心層の学年は、「大学院2年」が16人(41.0%)と最も多く、次いで「学部3年」が12人(30.8%)、「大学院1年」11人(28.2%)となっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と学年で「学部3年」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q2) 学年と Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q2)学年	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願校の結果に よっては入学 したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	50	100.0%	28	100.0%	11	100.0%	39	100.0%		11	100.0%
学部1年	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
学部2年	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
学部3年	13	26.0%	9	32.1%	3	27.3%	12	30.8%	4.8%	1	9.1%
学部4年	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
大学院1年	16	32.0%	8	28.6%	3	27.3%	11	28.2%	-3.8%	5	45.5%
大学院2年	21	42.0%	11	39.3%	5	45.5%	16	41.0%	-1.0%	5	45.5%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q3) 所属分野×Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向

関心層の所属分野は、「看護学」が20人(51.3%)、「医療技術(リハビリなど)」が19人(48.7%)と、「看護学」の方が「医療技術(リハビリなど)」よりわずかに多くなっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と所属分野で「医療技術(リハビリなど)」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q3) 所属分野と

Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q3)所属分野	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願校の結果に よっては入学 したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		人数	比率
調査数	50	100.0%	28	100.0%	11	100.0%	39	100.0%		11	100.0%
看護学	27	54.0%	12	42.9%	8	72.7%	20	51.3%	-2.7%	7	63.6%
医療技術(リハビリなど)	23	46.0%	16	57.1%	3	27.3%	19	48.7%	2.7%	4	36.4%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11) Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q4) 取得資格×Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向

関心層の取得資格は、「看護師」16人(47.1%)が最も多く、「理学療法士」9人(26.5%)、「作業療法士」4人(11.8%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と取得資格で「作業療法士」「言語聴覚士」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q4) 取得資格と

Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q4)取得資格	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願校の結果に よっては入学 したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		人数	比率
調査数	43	100.0%	23	100.0%	11	100.0%	34	100.0%		9	100.0%
理学療法士	11	25.6%	8	34.8%	1	9.1%	9	26.5%	0.9%	2	22.2%
作業療法士	4	9.3%	4	17.4%	0	0.0%	4	11.8%	2.5%	0	0.0%
言語聴覚士	3	7.0%	3	13.0%	0	0.0%	3	8.8%	1.8%	0	0.0%
看護師	21	48.8%	8	34.8%	8	72.7%	16	47.1%	-1.8%	5	55.6%
その他	4	9.3%	0	0.0%	2	18.2%	2	5.9%	-3.4%	2	22.2%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q5) 大学院博士後期課程への進学意向

× Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向

関心層の大学院博士後期課程への進学意向は、「進学したいと思う」が19人(48.7%)、「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」が20人(51.3%)で、これらの回答者の合計が39人(100.0%)と、関心層のすべての人が何らかの進学の意向を持っている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と大学院博士後期課程への進学意向で「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q5) 大学院博士後期課程への進学意向と

Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q5) 大学院博士後期課程への進学意向	全体平均		合格した場合、入学したいと思う		合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う		関心層		dif	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	50	100.0%	28	100.0%	11	100.0%	39	100.0%		11	100.0%
進学したいと思う	26	52.0%	14	50.0%	5	45.5%	19	48.7%	-3.3%	7	63.6%
今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う	24	48.0%	14	50.0%	6	54.5%	20	51.3%	3.3%	4	36.4%
進学は考えていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q6) 進学時期

× Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向

関心層の進学時期では、「進学時期は決めていない」13人(37.1%)が最も多く、次いで「開設1～4年後」12人(34.3%)、さらに「2024年4月(開設時)」と「わからない」がそれぞれ5人(14.3%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学時期で「開設1～4年後」を選択した層に相関性がみられる。

Q6) 進学時期と

Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q6)進学希望時期	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願校の結果に よっては入学 したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	45	100.0%	26	100.0%	9	100.0%	35	100.0%		10	100.0%
2024年4月(開設時)	7	15.6%	5	19.2%	0	0.0%	5	14.3%	-1.3%	2	20.0%
開設1～4年後	13	28.9%	12	46.2%	0	0.0%	12	34.3%	5.4%	1	10.0%
開設5年以降	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
進学時期は決めていない	18	40.0%	6	23.1%	7	77.8%	13	37.1%	-2.9%	5	50.0%
わからない	7	15.6%	3	11.5%	2	22.2%	5	14.3%	-1.3%	2	20.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q7) 進学先決定時の重視要因

×Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

関心層の進学先決定時の重視要因は、「専門分野の能力向上」24人(34.8%)が最も多く、次いで「研究科等の学びの分野」21人(30.4%)、さらに「学費(入学金・授業料・奨学金)」「アクセス・立地」6人(8.7%)、と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学先決定時の重視要因で「就職実績」「専門分野の能力向上」「学費(入学金・授業料・奨学金)」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q7) 進学先決定時の重視要因と

Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q7)進学先決定時の重視要因	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願校の結果に よっては入学 したいと思う		関心層		dif	入学しない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	比率差	人数	比率
調査数	89	100.0%	50	100.0%	19	100.0%	69	100.0%		20	100.0%
研究科等の学びの分野	30	33.7%	13	26.0%	8	42.1%	21	30.4%	-3.3%	9	45.0%
就職実績	3	3.4%	3	6.0%	0	0.0%	3	4.3%	1.0%	0	0.0%
専門分野の能力向上	28	31.5%	18	36.0%	6	31.6%	24	34.8%	3.3%	4	20.0%
設置形態(国公立・私立)	3	3.4%	1	2.0%	1	5.3%	2	2.9%	-0.5%	1	5.0%
校舎・施設の充実	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.1%	1	5.0%
学費(入学金・授業料・奨学金)	6	6.7%	6	12.0%	0	0.0%	6	8.7%	2.0%	0	0.0%
大学院の伝統・知名度	2	2.2%	0	0.0%	2	10.5%	2	2.9%	0.7%	0	0.0%
入試の難易度・入試科目	2	2.2%	1	2.0%	1	5.3%	2	2.9%	0.7%	0	0.0%
卒業後の教授や進路指導職員の意見	2	2.2%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.4%	-0.8%	1	5.0%
家族の意見	1	1.1%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.4%	0.3%	0	0.0%
アクセス・立地	9	10.1%	5	10.0%	1	5.3%	6	8.7%	-1.4%	3	15.0%
特に理由なく進学自体が目的	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
その他	2	2.2%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.4%	-0.8%	1	5.0%

上記は、表頭(表の上側)にQ9)保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q8) 修了後の活用業務

× Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

関心層の修了後の活用業務は、「専門性を生かした業務」32人(50.8%)が最も多く半数程度となっており、「指導者」19人(30.2%)、「研究者」12人(19.0%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と修了後の活用業務で「専門性を生かした業務」を選択した層に相関性がみられる。

Q8) 修了後の活用業務と

Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q8)修了後活用業務	全体平均		合格した場合、入学したいと思う		合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)		人数	比率(%)
調査数	83	100.0%	43	100.0%	20	100.0%	63	100.0%		20	100.0%
専門性を生かした業務	38	45.8%	23	53.5%	9	45.0%	32	50.8%	5.0%	6	30.0%
指導者	25	30.1%	12	27.9%	7	35.0%	19	30.2%	0.0%	6	30.0%
研究者	20	24.1%	8	18.6%	4	20.0%	12	19.0%	-5.0%	8	40.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

5. 進学需要分析

Q9) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への進学意向では、「合格した場合、入学したいと思う」が28人(56.0%)、「合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う」が11人(22.0%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が39人(78.0%)となっている(P. 14)。

Q9) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)へ 「入学したいと思う」と回答した28人の進学時期

Q6)大学院博士後期課程への進学時期	回答数(人)	構成比(%)
2024年4月(開設時)	5	17.9%
開設1~4年後	12	42.9%
開設5年後以降	0	0.0%
進学時期は決めていない	6	21.4%
わからない	3	10.7%
未回答・無効回答	2	7.1%
合計	28	100.0%

上記、「合格した場合、入学したいと思う」と回答した28人は、「Q6)大学院博士後期課程への進学時期」について、「2024年4月(開設時)」5人(17.9%)、「開設1~4年後」12人(42.9%)、「開設5年後以降」0人(0.0%)、「進学時期は決めていない」6人(21.4%)、「わからない」3人(10.7%)と回答しており、「未回答・無効回答」が2人(7.1%)となっている。この数値は、「2024年4月(開設時)」で入学定員(3人)の1.7倍、「開設1~4年後」では4.0倍となっている。また、「開設5年後以降」に進学したいと思う回答者はいないものの、「進学時期は決めていない」が2.0倍、「わからない」が1.0倍となっている。さらに「未回答・無効回答」も入学定員(3人)の0.7倍おり、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への一定の継続的な進学需要があるといえる。

6. 補記
アンケート説明文

福井医療大学 大学院 博士後期課程2024年4月設置予定

保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程について

障害者・高齢者が、社会で自立した生活を行い、かつ企業で活躍できるだけのスキルを身に着けるための、新しい自立支援技術やリハビリテーション技術を開発できる人材、さらに障害者・高齢者と社会を結びつける技量のある人材及びその指導者を養成することを目的とする。

研究科の構成

*定員等の記載内容は現時点での計画であり変更することがあります。

研究科・専攻名称		学位の種類	入学定員	收容定員
保健医療学研究科保健医療学専攻	博士前期課程 (現:修士課程)	修士 (保健医療学)	10人	20人
	博士後期課程	博士 (保健医療学)	3人	9人

博士後期課程の特色

健康生活支援・リハビリテーションを統合し、さらにリハビリテーション支援センターや高次脳機能障害支援センターとの共同で、多職種連携による障害者・高齢者の就労支援を包括的に探究できる研究者、さらにそれらを備えた医療者及びその指導者の育成を行う。

養成する人材像

●生活支援リハビリテーションコース

- ・障害者や高齢者が社会活動を営むにあたっての多様な課題を包括的に探究できる研究者の養成
- ・専門的知識と高い技術を備えたや地域連携推進者及びその指導者の養成

卒業後の活躍フィールド

●想定される就職分野

- ・大学、短期大学、企業等において研究開発に携わる研究者
- ・医療機関、社会福祉施設、行政機関などにおいて指導的役割を担う高度な専門性を持った医療者

入学資格

修士の学位を有する者又は入学時まで授与される見込みの者。

●学納金について

保健医療学研究科
保健医療学専攻(博士後期課程)
初年度学納金 800,000円
(入学金200,000円含む)

-近隣同分野の学部・学科の初年度学納金-
国公立/820,000円

●設置予定地

福井県福井市江上町55字鳥町13番1
【最寄駅】
福井駅から約12km
・車で約25分

アンケート調査票 1/2

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称） 設置計画に係るアンケート調査

福井医療大学では、新たに大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称）を設置することを検討しています。設置計画検討の参考として、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

【質問 1】 あなたの性別は、どちらですか。いずれかに○をつけてください。

- 1 男性 2 女性 3 未回答

【質問 2】 あなたの現在の所属について、該当するもの1つ選び○をつけてください。

- 1 学部1年 2 学部2年 3 学部3年 4 学部4年
5 大学院1年 6 大学院2年

【質問 3】 あなたの所属する分野について、次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 看護学 2 医療技術(リハビリなど) 3 その他()

【質問 4】 あなたの取得している資格について、該当するものを1つ選び○をつけてください。

- 1 理学療法士 2 作業療法士 3 言語聴覚士 4 看護師
5 その他()

【質問 5】 あなたは大学院博士後期課程への進学についてどのようにお考えですか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 進学したいと思う
2 今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う
3 進学は考えていない
4 わからない

* 【質問 6】 以降は、質問 5 で「1 進学したいと思う」「2 今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」と回答された方のみお答えください。

【質問 6】 あなたは進学時期についてどのようにお考えですか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 2024年4月(開設時) 2 開設1～4年後 3 開設5年後以降
4 進学時期は決めていない 5 わからない

⇒裏面へ続く

アンケート調査票 2/2

【質問7】あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか。次の中から2つまで選び○をつけてください。

- | | | |
|----------------|---------------|--------------------|
| 1 研究科等の学びの分野 | 2 就職実績 | 3 専門分野の能力向上 |
| 4 設置形態(国公立・私立) | 5 校舎・施設の充実 | 6 学費(入学金・授業料・奨学金) |
| 7 大学院の伝統・知名度 | 8 入試の難易度・入試科目 | 9 卒業校の教授や進路指導職員の意見 |
| 10 家族の意見 | 11 アクセス・立地 | 12 特に理由なく進学自体が目的 |
| 13 その他() | | |

【質問8】あなたは大学院修了後、どのような業務で学んだことを活かしたいですか。次の中から2つまで選び○をつけてください。

- | | | |
|--------------|-------|-------|
| 1 専門性を生かした業務 | 2 指導者 | 3 研究者 |
| 4 その他() | | |

【質問9～10】は、別紙「福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称）」の概要をご覧ください、ご記入ください。

【質問9】福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称）を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。
次の中から、1つ選び○をつけてください。

- 1 合格した場合、入学したいと思う
- 2 合格した場合、併願校の結果によっては入学したいと思う
- 3 入学しない

【質問10】福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称）の設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

福井医療大学大学院博士後期課程開設準備室

福井医療大学 御中

保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程
設置計画に係るニーズ調査報告書(事業所編)

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	6
4. 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への関心分析	17
5. 採用需要推計	25

1. 調査概要

(1) 調査目的

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする

(2) 調査対象

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の専攻分野から選定した修了者の就職先として考えられる事業所

(3) 実施時期

2022年12月20日～2023年1月13日

(4) 回収状況

本調査では303事業所を対象にアンケート調査票を配布し、94件のアンケートを回収することが出来た(回収率31.0%)

(5) 調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照

2. 調査・分析結果の要旨

(1) 調査結果の要旨

①事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院、診療所」68事業所(72.3%)が最も多く、「福祉施設」18事業所(19.1%)、「その他」5事業所(5.3%)と続いている。

②事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「福井県」52事業所(55.3%)が最も多く、6割近くとなっており、「滋賀県」13事業所(13.8%)、「富山県」12事業所(12.8%)と続いている。

③事業所の規模

回答事業所の規模は、「100-499人」50事業所(53.2%)が最も多く、5割以上となっており、「50人未満」16事業所(17.0%)、「50~99人」14事業所(14.9%)と続いている。

④過去3年間の大学院修了者採用人数

回答事業所の過去3年間の大学院修了者採用人数は下記のとおり。

2020年度		2021年度		2022年度	
事業者数(事業所)	採用人数(人)	事業者数(事業所)	採用人数(人)	事業者数(事業所)	採用人数(人)
合計	11	合計	10	合計	12
	31		40		39

⑤人材充足状況

回答事業所の人材充足状況は、「不足している」が21事業所(22.3%)、「やや不足している」が28事業所(29.8%)で、これらの合計が49事業所(52.1%)となり、程度の差はあるものの5割以上の事業所で人材が不足していると回答している。一方、「充足している」は1事業所(1.1%)、「ある程度充足している」は30事業所(31.9%)となっている。

⑥人材採用時の重視点

回答事業所の人材採用時の重視点は、「コミュニケーション能力」51事業所(28.2%)が最も多く、「チームで働く力」45事業所(24.9%)、「社会常識」27事業所(14.9%)と続いており、「語学力」「国際感覚(広い視野・価値観)」0事業所(0.0%)や「論理的思考力」3事業所(1.7%)についてはあまり重視されていない。

⑦保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の設置の必要性

保健医療学研究科 保健医療学専攻博士後期課程(仮称)の設置の必要性について、「必要性を感じる」が11事業所(11.7%)、「ある程度の必要性を感じる」が35事業所(37.2%)で、これらの合計が46事業所(48.9%)と設置について5割近くの事業所が何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は8事業所(8.5%)、「必要性を感じない」は5事業所(5.3%)でこれらの合計は13事業所(13.8%)に留まっている。

⑧保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向・人数

回答事業所の保健医療学研究科 保健医療学専攻博士後期課程(仮称)修了者の採用意向については、「採用したい」が5事業所(5.3%)、「採用を検討したい」が19事業所(20.2%)で、これらの合計が24事業所(25.5%)となり、3割近くの事業所が保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。

修了者の採用意向人数は、「採用したい」が5事業所(うち1事業所は人数未回答)15人、「採用を検討したい」が19事業所(うち4事業所は人数未回答)20人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで35人となっている。

⑨大学院修了者への期待

大学院修了者への期待については、「専門性を活かした業務」21事業所(56.8%)、「指導者的役割」14事業所(37.8%)、「研究的役割」2事業所(5.4%)と続いている。

(2)分析結果の要旨

調査結果に基づく、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称) 修了者の採用意向人数は、「採用したい」が 5 事業所(うち 1 事業所は人数未回答)15人、「採用を検討したい」が19事業所(うち4事業所は人数未回答)20人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで 35 人となっている(P14)。また、採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に 1 事業所当たり 1 人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は「採用したい」のみで 16 人、「採用を検討したい」まで含めると 40 人となる。この数値は「採用したい」のみで入学定員(3人)の 5.3 倍、「採用を検討したい」まで含めると 13.3 倍となる(P25)。また、「採用したい」「採用を検討したい」と回答した関心層 40 事業所の採用実績合計は、2020 年度 23 人、2021 年度 36 人、2022 年度 26 人となっている(P26)。以上から、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者に対する一定の安定的採用需要があるといえる。

加えて、回答事業所の過去 3 年間の大学院卒業者採用人数は、2020 年度 11 事業所 31 人、2021 年度 10 事業所 40 人、2020 年度 12 事業所 39 人で、2020 年度から 2022 年度でいずれも 30 人以上を採用している(P9)ことから、回答事業所全体としても一定の継続的な大学院修了者の採用需要があることが窺われる。

人材採用について、「Q6)人材採用時の重視点」では、多くの事業所が「コミュニケーション能力」「チームで働く力」と回答している(P11)。また、「Q10)大学院修了者への期待」では多くの事業所が「専門性を活かした業務」「指導者的役割」と回答している(P15)ことから、自学の教育理念や目的に基づき、これらの重視点や期待を反映した優秀な人材を輩出していくことで、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の評価を高め、就職先となる事業所等との連携を強化していくことが重要な成功要因になると考えられる。

「Q8)保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向」では、回答した事業所のうち 6 割以上が「わからない」と答えている(P13)ことから、現状の説明では、養成する人材像や身に着けさせる能力、修了後の進路について十分に理解されていない可能性があることが窺われ、就職先となる施設・事業所に向けて、修了生の想定される進路との関係性も含めた研究科の特徴について具体的に説明していく広報活動も必要と思われる。

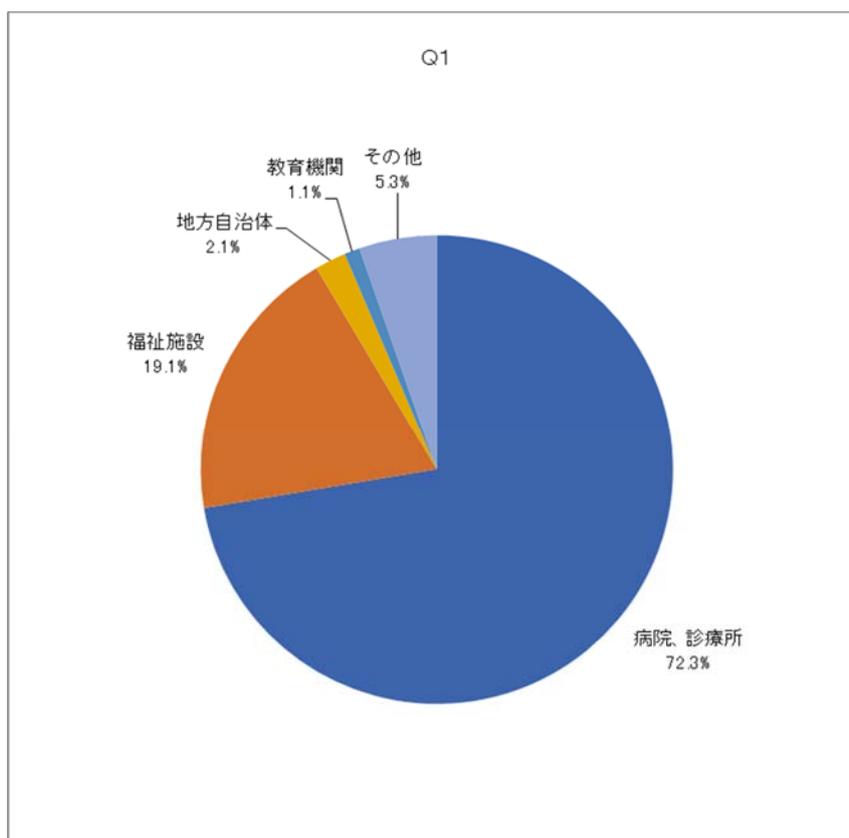
3. 全体集計結果

Q1) 事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院、診療所」68 事業所 (72.3%) が最も多く、「福祉施設」18 事業所 (19.1%)、「その他」5 事業所 (5.3%) と続いている。

Q1) 貴事業所の主たる種別はどちらですか。

Q 1	回答数 (事業所)	構成比 (%)
全体	94	100.0%
病院、診療所	68	72.3%
福祉施設	18	19.1%
保健所	0	0.0%
地方自治体	2	2.1%
教育機関	1	1.1%
一般企業	0	0.0%
その他	5	5.3%



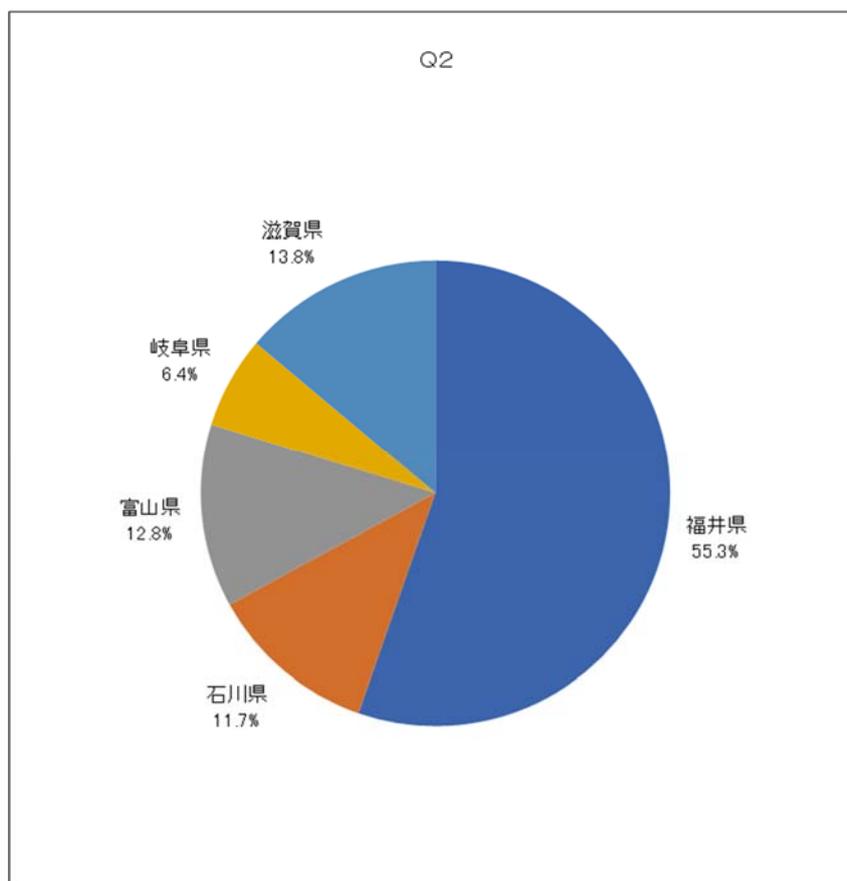
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q2) 事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「福井県」52 事業所 (55.3%) が最も多く、6 割近くとなっており、「滋賀県」13 事業所 (13.8%)、「富山県」12 事業所 (12.8%) と続いている。

Q2) 貴事業所の主たる所在地はどちらですか。

	回答数 (事業所)	構成比 (%)
全体	94	100.0%
福井県	52	55.3%
石川県	11	11.7%
富山県	12	12.8%
岐阜県	6	6.4%
滋賀県	13	13.8%
京都府	0	0.0%
その他	0	0.0%



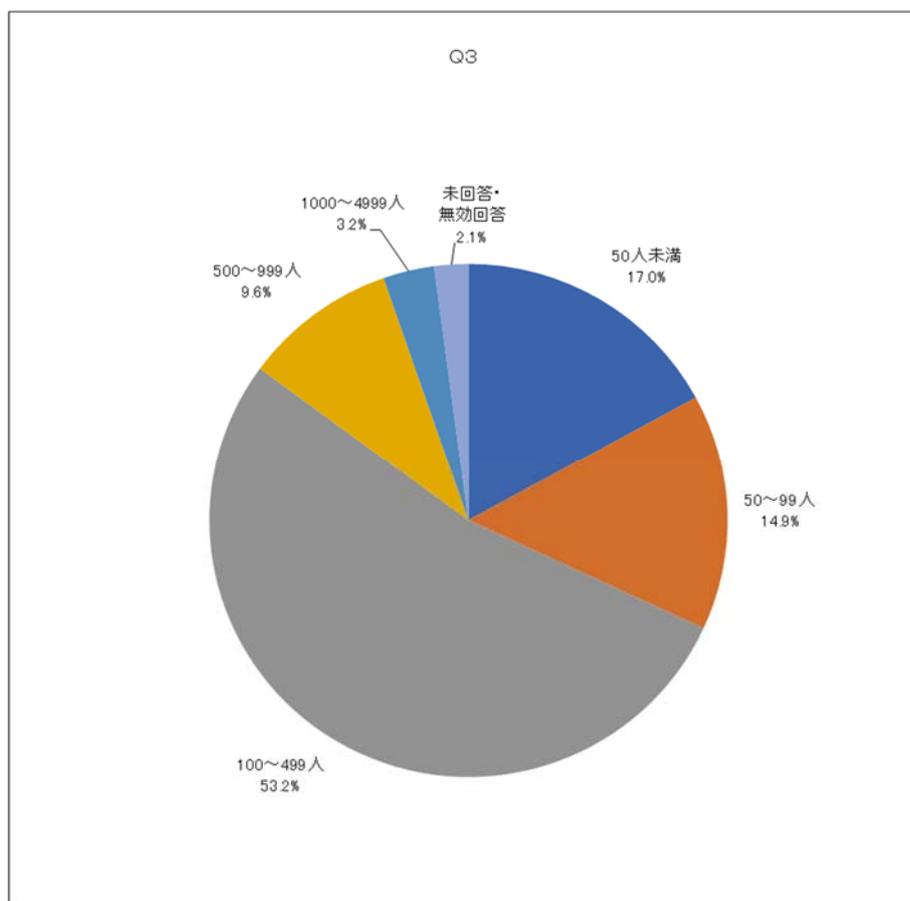
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3) 事業所の規模

回答事業所の規模は、「100～499人」50事業所(53.2%)が最も多く、5割以上となっており、「50人未満」16事業所(17.0%)、「50～99人」14事業所(14.89%)と続いている。

Q3) 貴事業所の従業員数(正規社員)について、該当するもの1つに○をつけてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	94	100.0%
50人未満	16	17.0%
50～99人	14	14.9%
100～499人	50	53.2%
500～999人	9	9.6%
1000～4999人	3	3.2%
5000人以上	0	0.0%
未回答・無効回答	2	2.1%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

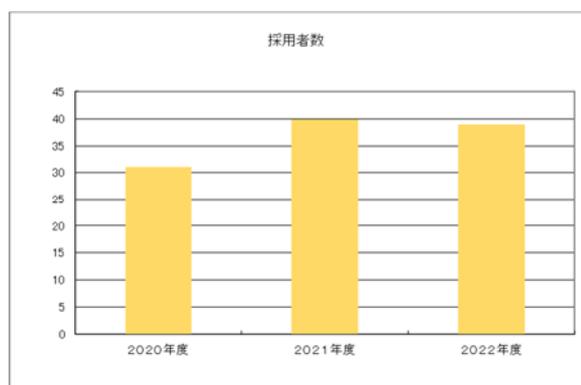
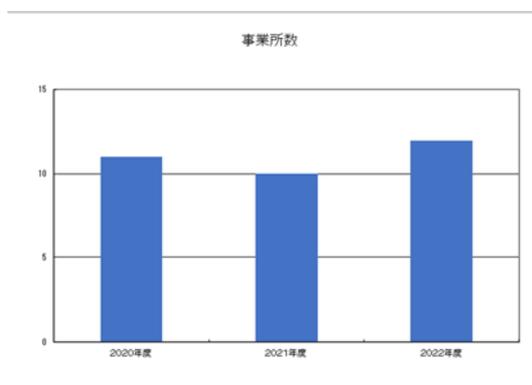
Q4) 過去3年間の大学院卒業者採用人数

回答事業所の過去3年間の大学院卒業者採用人数は、2020年度11事業所31人、2021年度10事業所40人、2022年度12事業所39人で、2020年度から2022年度でいずれも30人以上を採用していることがわかる。

Q4) 貴事業所では、大学院卒業者を過去3年間で何人採用されましたか。

*** 詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。**

2020年度		2021年度		2022年度	
	事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)
合計	11	31	合計	10	40
			合計	12	39



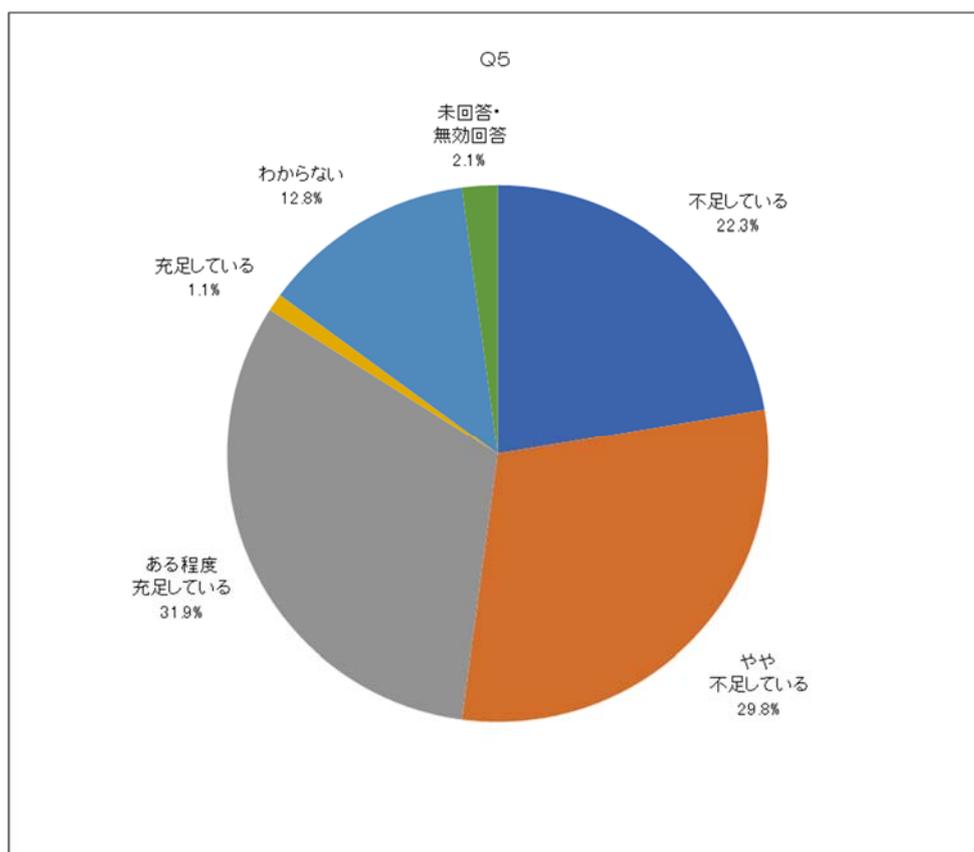
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5) 人材充足状況

回答事業所の人材充足状況は、「不足している」が 21 事業所 (22.3%)、「やや不足している」が 28 事業所 (29.8%) で、これらの合計が 49 事業所 (52.1%) となり、程度の差はあるものの 5 割以上の事業所で人材が不足していると回答している。一方、「充足している」は 1 事業所 (1.1%)、「ある程度充足している」は 30 事業所 (31.9%) となっている。

Q5) 貴事業所では、過去3年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	94	100.0%
不足している	21	22.3%
やや不足している	28	29.8%
ある程度充足している	30	31.9%
充足している	1	1.1%
わからない	12	12.8%
未回答・無効回答	2	2.1%



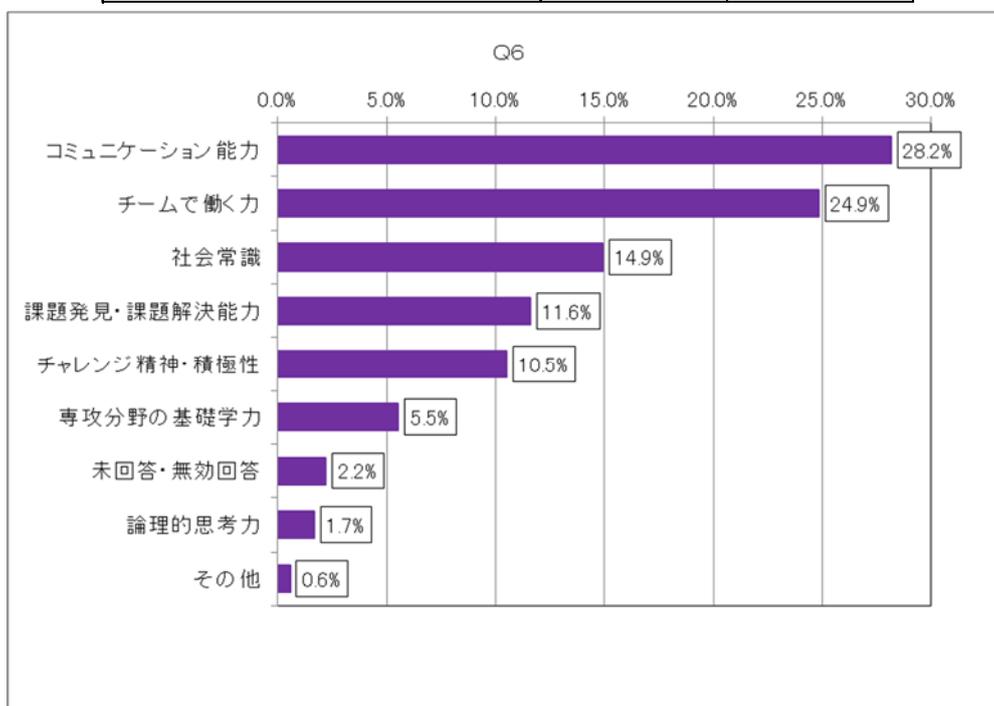
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6) 人材採用時の重視点 *複数選択可(2つまで)

回答事業所の人材採用時の重視点は、「コミュニケーション能力」51事業所(28.2%)が最も多く、「チームで働く力」45事業所(24.9%)、「社会常識」27事業所(14.9%)と続いており、「語学力」「国際感覚(広い視野・価値観)」0事業所(0.0%)や「論理的思考力」3事業所(1.7%)についてはあまり重視されていない。

Q6) 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	181	100.0%
コミュニケーション能力	51	28.2%
語学力	0	0.0%
課題発見・課題解決能力	21	11.6%
チームで働く力	45	24.9%
チャレンジ精神・積極性	19	10.5%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%
論理的思考力	3	1.7%
専攻分野の基礎学力	10	5.5%
社会常識	27	14.9%
その他	1	0.6%
未回答・無効回答	4	2.2%



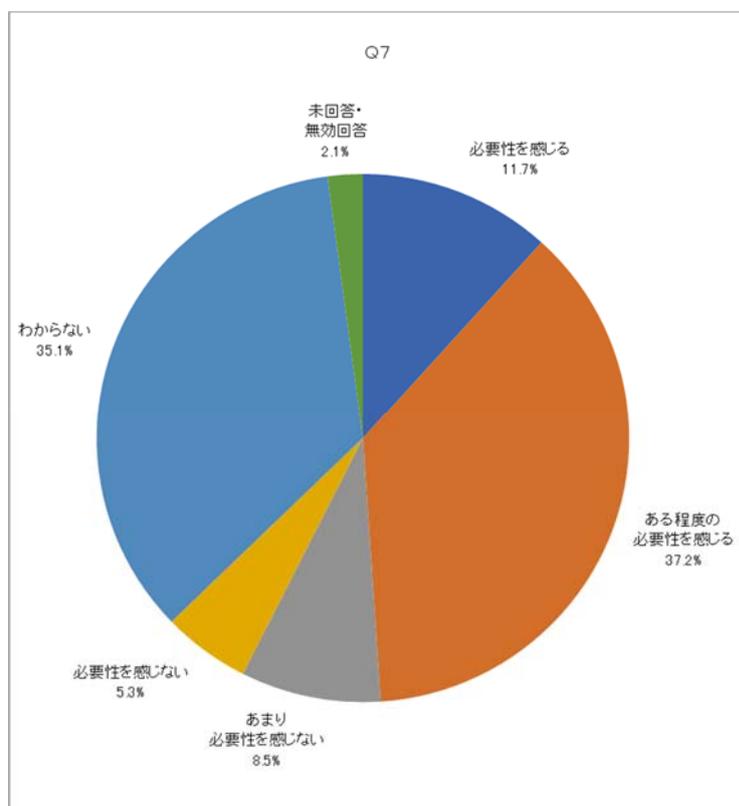
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の設置の必要性

保健医療学研究科 保健医療学専攻博士後期課程(仮称)の設置の必要性について、「必要性を感じる」が11事業所(11.7%)、「ある程度の必要性を感じる」が35事業所(37.2%)で、これらの合計が46事業所(48.9%)と、設置について5割近くの事業所が何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は8事業所(8.5%)、「必要性を感じない」は5事業所(5.3%)でこれらの合計は13事業所(13.8%)に留まっている。

Q7) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)についてどの程度必要性を感じますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	94	100.0%
必要性を感じる	11	11.7%
ある程度の必要性を感じる	35	37.2%
あまり必要性を感じない	8	8.5%
必要性を感じない	5	5.3%
わからない	33	35.1%
未回答・無効回答	2	2.1%



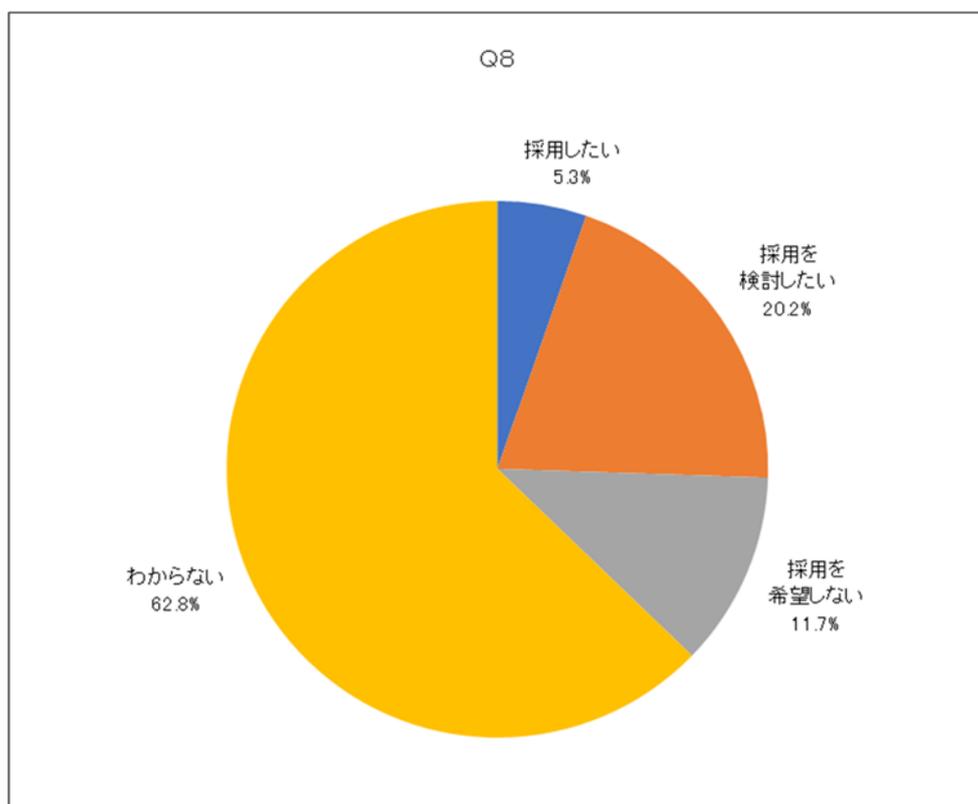
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)-1 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向

回答事業所の保健医療学研究科 保健医療学専攻博士後期課程(仮称)修了者の採用意向については、「採用したい」が5事業所(5.3%)、「採用を検討したい」が19事業所(20.2%)で、これらの合計が24事業所(25.5%)となり、3割近くの事業所が保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。一方、「採用を希望しない」は11事業所(11.7%)で、59事業所(62.8%)が「わからない」と回答している。

Q8) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の修了者の採用について、どのようにお考えですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	94	100.0%
採用したい	5	5.3%
採用を検討したい	19	20.2%
採用を希望しない	11	11.7%
わからない	59	62.8%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)-2 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称) 修了者の採用意向人数

Q8)-2 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の修了者の採用意向人数

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	5事業所→計15人	内、1事業所→未回答
採用を検討したい	19事業所→計20人	内、4事業所→未回答
合計	35人	

回答事業所の保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向人数は、「採用したい」が5事業所(うち1事業所は人数未回答)15人、「採用を検討したい」が19事業所(うち4事業所は人数未回答)20人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで35人となっている。

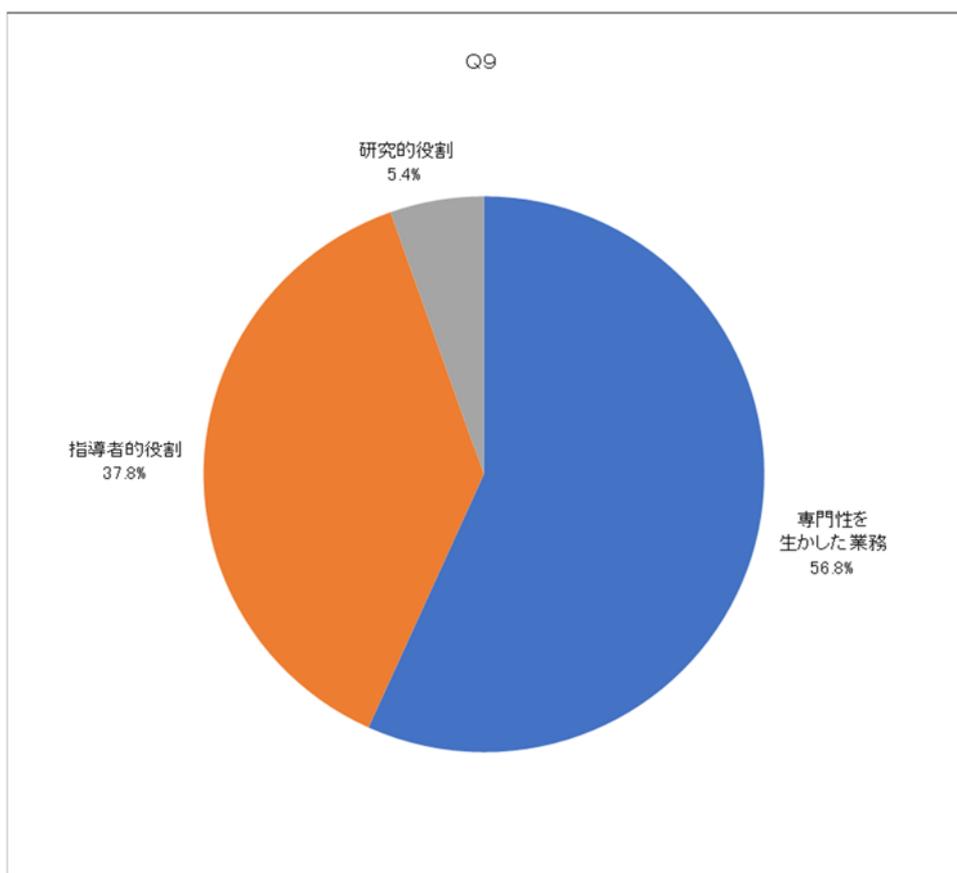
Q9) 採用後の期待

*Q8)で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した方のみ、複数選択可

大学院修了者への期待については、「専門性を活かした業務」21 事業所 (56.8%)、「指導者の役割」14 事業所 (37.8%)、「研究的役割」2 事業所 (5.4%)と続いている。

Q9) 採用後、大学院修了者に何を期待されますか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	37	100.0%
専門性を活かした業務	21	56.8%
指導者の役割	14	37.8%
研究的役割	2	5.4%
その他	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q10) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への意見・要望

Q10) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

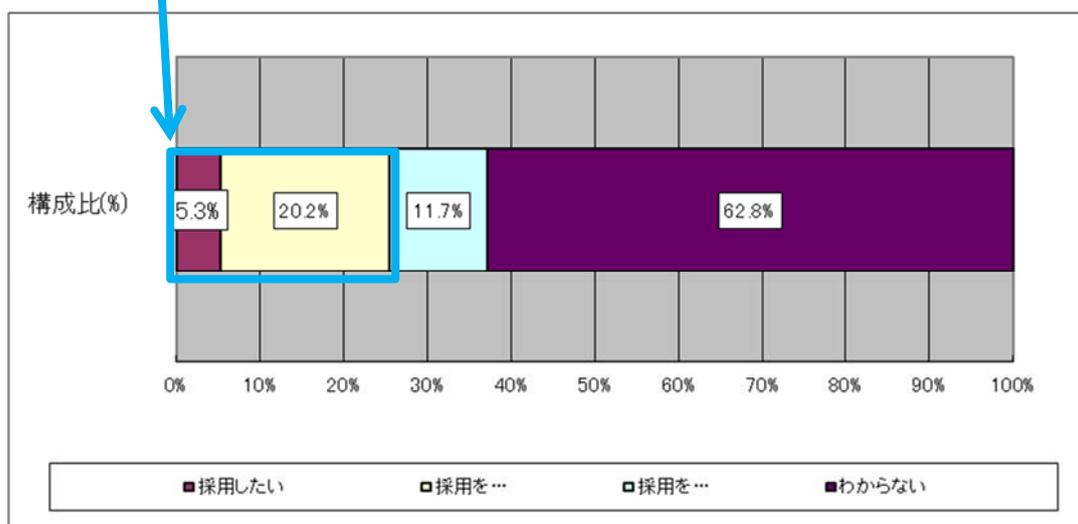
Q10
「福祉の担手づくり」特に施設で働くことに興味をもっていたいただき施設で働くことのやりがい、楽しさを広めていただきたい。
医療者となっているが、貴大学院を卒業されると何か資格を取得されるのでしょうか？養成する人材像は理解できますが、では実際医療機関で働かれるとなると、専門職なのかどうなのかよくわからない為、採用のイメージができなかった。
技術職は学部卒後実務経験を経ての学び直し機改があればよいと思います。
業務の中での専門性を生かした指導を期待します。
研究者の育成は良い方向と考えます。門戸が広がっていくのは(志のある人にとっては)ありがたいところ。
地域に求められる社会的処方や地域包括医療・ケアの核となり得る人材が輩出されるものと期待しています。
臨床の場で研究の機会があっても器具など制限があります。スポットで研究に対しての勉強ができる場があるといいです。現場にニーズもあるかと思います。

4. 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への関心分析
 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の関心層
 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)への関心を分析するため、次のとおり「関心層」を定義する。Q8)において、修了者を「採用したい」5事業所(5.3%)、「採用を検討したい」19事業所(20.2%)と回答した計24事業所(25.5%)を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向を分析する。

Q8) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の修了者の採用について、どのようにお考えですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	94	100.0%
採用したい	5	5.3%
採用を検討したい	19	20.2%
採用を希望しない	11	11.7%
わからない	59	62.8%
未回答・無効回答	0	0.0%

関心層



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

Q1) 事業所の種別×Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向

関心層の事業所の種別は、「病院、診療所」16 事業所(66.7%)が最も多く、「福祉施設」8 事業所(33.3%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と事業所の種別で「福祉施設」と回答した層に高い相関性がみられる。

Q1) 事業所の種別と Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q1)種別	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	94	100.0%	5	100.0%	19	100.0%	24	100.0%		11	100.0%	59	100.0%
病院、診療所	68	72.3%	2	40.0%	14	73.7%	16	66.7%	-5.7%	9	81.8%	43	72.9%
福祉施設	18	19.1%	3	60.0%	5	26.3%	8	33.3%	14.2%	2	18.2%	8	13.6%
保健所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
地方自治体	2	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-2.1%	0	0.0%	2	3.4%
教育機関	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.1%	0	0.0%	1	1.7%
一般企業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	5	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-5.3%	0	0.0%	5	8.5%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q2) 事業所の所在地 × Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程 (仮称) 修了者の採用意向

関心層の事業所の所在地は、「福井県」13 事業所 (54.2%) が最も多く 5 割以上となっており、「石川県」6 事業所 (25.0%)、「富山県」3 事業所 (12.5%) と続いている。また、dif (関心層での比率－全体での比率) では、関心層と事業所の所在地で「石川県」と回答した層に高い相関性がみられる。

Q2) 事業所の所在地と Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程 (仮称) 修了者の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q2)所在地	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	94	100.0%	5	100.0%	19	100.0%	24	100.0%		11	100.0%	59	100.0%
福井県	52	55.3%	3	60.0%	10	52.6%	13	54.2%	-1.2%	7	63.6%	32	54.2%
石川県	11	11.7%	0	0.0%	6	31.6%	6	25.0%	13.3%	2	18.2%	3	5.1%
富山県	12	12.8%	2	40.0%	1	5.3%	3	12.5%	-0.3%	2	18.2%	7	11.9%
岐阜県	6	6.4%	0	0.0%	1	5.3%	1	4.2%	-2.2%	0	0.0%	5	8.5%
滋賀県	13	13.8%	0	0.0%	1	5.3%	1	4.2%	-9.7%	0	0.0%	12	20.3%
京都府	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程 (仮称) 修了者の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q3) 事業所の規模×Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向

関心層の事業所の規模は、「100～499人」14事業所(60.9%)が最も多く、6割以上となっており、「50～99人」「500～499人」各4事業所(17.4%)、「50人未満」1事業所(4.3%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と事業所の所在地で「500～999人」「100～499人」と回答した層に相関性がみられ、「50～99人」と回答した層にもやや相関性がみられる。

Q3) 事業所の規模と Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q3)従業員数	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	92	100.0%	4	100.0%	19	100.0%	23	100.0%		11	100.0%	58	100.0%
50人未満	16	17.4%	0	0.0%	1	5.3%	1	4.3%	-13.0%	3	27.3%	12	20.7%
50～99人	14	15.2%	1	25.0%	3	15.8%	4	17.4%	2.2%	1	9.1%	9	15.5%
100～499人	50	54.3%	2	50.0%	12	63.2%	14	60.9%	6.5%	6	54.5%	30	51.7%
500～999人	9	9.8%	1	25.0%	3	15.8%	4	17.4%	7.6%	1	9.1%	4	6.9%
1000～4999人	3	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-3.3%	0	0.0%	3	5.2%
5000人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q5) 人材充足状況×Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向

関心層の人材充足状況は、「やや不足している」9 事業所 (39.1%) が最も多く、「不足している」「ある程度充足している」各 7 事業所 (39.4%) と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と人材充足状況で「やや不足している」「不足している」と回答した層に相関性がみられる。

Q5) 人材充足状況と Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q5)充足状況	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	92	100.0%	4	100.0%	19	100.0%	23	100.0%		10	100.0%	59	100.0%
不足している	21	22.8%	3	75.0%	4	21.1%	7	30.4%	7.6%	3	30.0%	11	18.6%
やや不足している	28	30.4%	1	25.0%	8	42.1%	9	39.1%	8.7%	4	40.0%	15	25.4%
ある程度充足している	30	32.6%	0	0.0%	7	36.8%	7	30.4%	-2.2%	3	30.0%	20	33.9%
充足している	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.1%	0	0.0%	1	1.7%
わからない	12	13.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-13.0%	0	0.0%	12	20.3%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q6) 人材採用の際の重視点(2つまで選択) × Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向

関心層の人材採用の際の重視点は、「コミュニケーション能力」16事業所(33.3%)が最も多く、「チームで働く力」14事業所(29.2%)、「チャレンジ精神・積極性」7事業所(14.6%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と人材採用の際の重視点で「コミュニケーション能力」「チャレンジ精神・積極性」「チームで働く力」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q6) 人材採用の際の重視点と Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q6)重視	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	177	100.0%	10	100.0%	38	100.0%	48	100.0%		21	100.0%	108	100.0%
コミュニケーション能力	51	28.8%	4	40.0%	12	31.6%	16	33.3%	4.5%	7	33.3%	28	25.9%
語学力	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
課題発見・課題解決能力	21	11.9%	1	10.0%	3	7.9%	4	8.3%	-3.5%	1	4.8%	16	14.8%
チームで働く力	45	25.4%	2	20.0%	12	31.6%	14	29.2%	3.7%	7	33.3%	24	22.2%
チャレンジ精神・積極性	19	10.7%	2	20.0%	5	13.2%	7	14.6%	3.8%	2	9.5%	10	9.3%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
論理的思考力	3	1.7%	1	10.0%	0	0.0%	1	2.1%	0.4%	0	0.0%	2	1.9%
専攻分野の基礎学力	10	5.6%	0	0.0%	3	7.9%	3	6.3%	0.6%	1	4.8%	6	5.6%
社会常識	27	15.3%	0	0.0%	3	7.9%	3	6.3%	-9.0%	3	14.3%	21	19.4%
その他	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-0.6%	0	0.0%	1	0.9%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q7) 設置の必要性×Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向

関心層の設置の必要性は、「ある程度の必要性を感じる」17 事業所(70.8%)が最も多く、「必要性を感じる」4 事業所(16.7%)、「わからない」2 事業所(8.3%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と人材採用の際の重視点である程度「ある程度必要性を感じる」と回答した層に非常に高い相関性がみられ、「必要性を感じる」と回答した層にもやや相関性がみられる。

Q7) 設置の必要性と Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q7)必要性	全体平均	採用したい	採用を検討したい	関心層	d i f	採用を希望しない	わからない
調査数	92 100.0%	5 100.0%	19 100.0%	24 100.0%		10 100.0%	58 100.0%
必要性を感じる	11 12.0%	2 40.0%	2 10.5%	4 16.7%	4.7%	1 10.0%	6 10.3%
ある程度の必要性を感じる	35 38.0%	2 40.0%	15 78.9%	17 70.8%	32.8%	2 20.0%	16 27.6%
あまり必要性を感じない	8 8.7%	0 0.0%	1 5.3%	1 4.2%	-4.5%	2 20.0%	5 8.6%
必要性を感じない	5 5.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	-5.4%	4 40.0%	1 1.7%
わからない	33 35.9%	1 20.0%	1 5.3%	2 8.3%	-27.5%	1 10.0%	30 51.7%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

**Q9) 大学院修了者への期待×Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)
修了者の採用意向**

***Q8)で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した方のみ、複数選択可**

関心層の大学院修了者への期待は、「専門性を活かした業務」21 事業所 (56.8%) が最も多く、「指導者的役割」14 事業所 (37.8%)、「研究的役割」2 事業所 (5.4%) と続いている。また、Q10)は関心層のみを対象とした設問であることから、dif(関心層での比率－全体での比率)では各項目において相関性はみられなかった。

Q9) 大学院修了者への期待と Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称) 修了者の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q9)期待	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	37	100.0%	9	100.0%	28	100.0%	37	100.0%		0	0.0%	0	0.0%
専門性を活かした業務	21	56.8%	5	55.6%	16	57.1%	21	56.8%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
指導者的役割	14	37.8%	3	33.3%	11	39.3%	14	37.8%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
研究的役割	2	5.4%	1	11.1%	1	3.6%	2	5.4%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称) 修了者の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

5. 採用需要推計

保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称) 修了者の採用需要推計

保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称) 修了者が採用される可能性のある人数は下記のとおり。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	5事業所→計15人	内、1事業所→未回答
採用を検討したい	19事業所→計20人	内、4事業所→未回答
合計	35人	

実際に採用に至るか否かについては、就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて、「採用を検討したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)
採用したい 5事業所	5事業所15人+1事業所1人=16人
採用を検討したい 19事業所	19事業所20人+4事業所4人=24人
合計	40人

調査結果に基づく、保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称) 修了者の推計採用意向人数は「採用したい」のみで16人、「採用を検討したい」まで含めると40人となる。この数値は「採用したい」のみで入学定員(3人)の5.3倍、「採用を検討したい」まで含めると13.3倍となることから、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称) 修了者に対する一定の採用需要があるといえる。

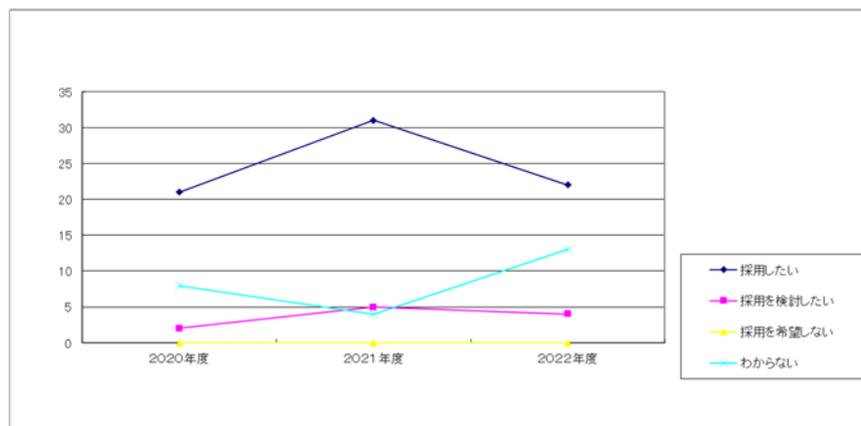
保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の潜在的採用需要推計

以下は回答事業所の「Q8) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)修了者の採用意向」と各事業所の2020年度～2022年度の大学院卒業生の採用実績推移を表にしたものである。「採用したい」「採用を検討したい」と回答した関心層40事業所の採用実績合計は、2020年度23人、2021年度36人、2022年度26人となっている。

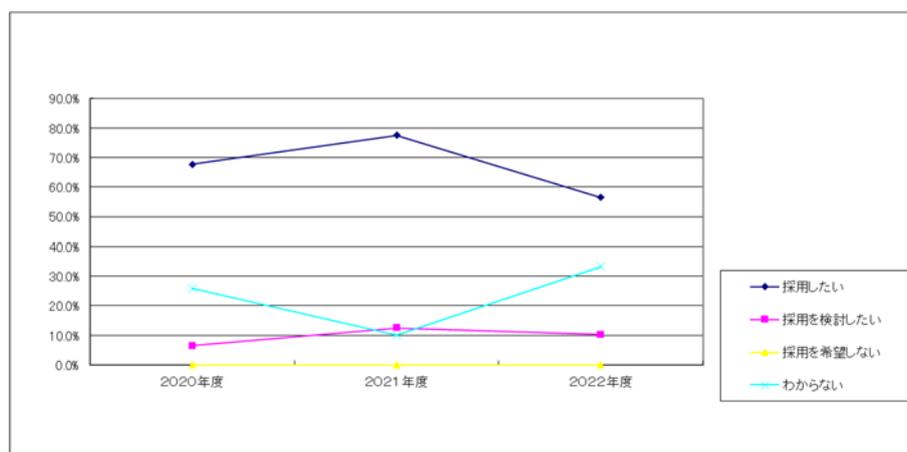
保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程(仮称)の採用意向が高い事業所の大学院卒業生の採用実績推移(2020年度～2022年度)

	2020年度		2021年度		2022年度	
	採用人数(人)	構成比(%)	採用人数(人)	構成比(%)	採用人数(人)	構成比(%)
調査数	31	100.0%	40	100.0%	39	100.0%
採用したい	21	67.7%	31	77.5%	22	56.4%
採用を検討したい	2	6.5%	5	12.5%	4	10.3%
採用を希望しない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	8	25.8%	4	10.0%	13	33.3%

事業所の採用人数推移(2020年度～2022年度)



事業所の構成比率(2020年度～2022年度)



6. 補記

アンケート説明文

福井医療大学 大学院 博士後期課程2024年4月設置予定

保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程について

障害者・高齢者が、社会で自立した生活を行い、かつ企業で活躍できるだけのスキルを身に着けるための、新しい自立支援技術やリハビリテーション技術を開発できる人材、さらに障害者・高齢者と社会を結びつける技量のある人材及びその指導者を養成することを目的とする。

研究科の構成

*定員等の記載内容は現時点での計画であり変更することがあります。

研究科・専攻名称	学位の種類	入学定員	収容定員
保健医療学研究科保健医療学専攻	博士前期課程 (現:修士課程)	10人	20人
	博士後期課程	3人	9人

博士後期課程の特色

健康生活支援・リハビリテーションを統合し、さらにリハビリテーション支援センターや高次脳機能障害支援センターとの共同で、多職種連携による障害者・高齢者の就労支援を包括的に探究できる研究者、さらにそれらを備えた医療者及びその指導者の育成を行う。

養成する人材像

- 生活支援リハビリテーションコース

- ・障害者や高齢者が社会活動を営むにあたっての多様な課題を包括的に探究できる研究者の養成
- ・専門的知識と高い技術を備えたや地域連携推進者及びその指導者の養成

卒業後の活躍フィールド

- 想定される就職分野

- ・大学、短期大学、企業等において研究開発に携わる研究者
- ・医療機関、社会福祉施設、行政機関などにおいて指導的役割を担う高度な専門性を持った医療者

入学資格

修士の学位を有する者又は入学時まで授与される見込みの者。

- 学納金について

保健医療学研究科
保健医療学専攻(博士後期課程)
初年度学納金 800,000円
(入学金200,000円含む)

-近隣同分野の学部・学科の初年度学納金-
国公立/820,000円

- 設置予定地

福井県福井市江上町55字鳥町13番1
【最寄駅】
福井駅から約12km
・車で約25分

アンケート調査票 1/2

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称） 設置計画に係る事業所アンケート調査

福井医療大学では、新たに大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（仮称）を設置することを検討しています。設置計画検討の参考として、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

【質問 1】 貴事業所の主たる種別は次のどれですか？ 1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| 1 病院、診療所 | 2 福祉施設 | 3 保健所 |
| 4 地方自治体 | 5 教育機関 | 6 一般企業 |
| 7 その他() | | |

【質問 2】 貴事業所の主たる所在地に○をつけてください。

- | | | |
|----------|-------|-------|
| 1 福井県 | 2 石川県 | 3 富山県 |
| 4 岐阜県 | 5 滋賀県 | 6 京都府 |
| 7 その他() | | |

【質問 3】 貴事業所の従業員数（正規職員）について、該当するもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|------------|----------------|------------|
| 1 50名未満 | 2 50～99名 | 3 100～499名 |
| 4 500～999名 | 5 1,000～4,999名 | 6 5,000名以上 |

【質問 4】 貴事業所では、大学院卒業者を過去3年間で何人採用されましたか？採用人数をご記入ください。*詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

2020年度	2021年度	2022年度
()人	()人	()人

【質問 5】 貴事業所では、過去3年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか？次の中から1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------|--------------|
| 1 不足している | 2 やや不足している | 3 ある程度充足している |
| 4 充足している | 5 わからない | |

【質問 6】 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか？

次の中から2つまで選び、○をつけてください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 コミュニケーション能力 | 2 語学力 |
| 3 課題発見・課題解決能力 | 4 チームで働く力 |
| 5 チャレンジ精神・積極性 | 6 国際感覚(広い視野・価値観) |
| 7 論理的思考力 | 8 専攻分野の基礎学力 |
| 9 社会常識 | 10 その他() |

⇒裏面へ続く

アンケート調査票 2/2

【質問 7～10】は、別紙「福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称）」の概要をご覧ください、ご記入ください。

【質問 7】福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称）についてどの程度必要性を感じますか。次の中から1つ選び○をつけてください。

- 1 必要性を感じる 2 ある程度の必要性を感じる 3 あまり必要性を感じない
4 必要性を感じない 5 わからない

【質問 8】福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称）の修了者の採用について、どのようにお考えですか。次の中から1つ選び○をつけてください。

- 1 採用したい()人程度 2 採用を検討したい()人程度
3 採用を希望しない 4 わからない

【質問 9】質問 8 で「1採用したい」「2採用を検討したい」と回答された方にお聞きします。採用後、大学院修了者に何を期待されますか。次の中から該当するものを選び○をつけてください（複数回答可）。

- 1 専門性を生かした業務 2 指導者的役割 3 研究的役割
4 その他()

【質問 10】福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）（仮称）に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

福井医療大学大学院博士後期課程開設準備室